

ていくことが盛り込まれ、この事業が日露二国間の友情発展にも寄与して欲しいという願いを込めて「希望の星プロジェクト」と命名された。



(放置された原子力潜水艦)

ただし、原潜の解体作業を日本側が直接請け負ったのではなく、資金を出してロシア側が実際の作業を行い、我国からは造船や原子力の技術者が現場で安全かつ確実に行われるよう指導にあたった。

こうした作業が行われ、核の不拡散、日本海の環境保全が守られていることを各段階で直接確認を行うことは、原潜の解体を着実に進んでいることを確保する上で重要だ。

原潜を解体するには、原子炉から燃料棒が抜き取られ、使用済み燃料として一時保管、その後 鉄道でロシア国内の貯蔵・処理施設に運ばれる。